

3-1 研究のまとめ

昨年度、総合教育センター生涯学習部が行った「栃木県における家庭教育支援の状況調査」から、高校生の保護者を対象にした学びの機会が少ないことが明らかになっていた。今回の県立学校を対象にしたアンケート調査からも、保護者を対象にした学びの機会を設けている割合は34%と十分実施できているとは言えない結果が判明した。さらに、「親学習プログラム・思春期版家庭教育支援プログラム」の活用がある学校の割合が9%であるという状況についても把握することができた。

今年度は、切れ目ない家庭教育支援の充実を図るため、特に思春期の子を持つ保護者に焦点をあて、「親学習プログラム」の活用促進に向けた研究を進めてきた。子どもを心豊かに安心して育てる教育環境を充実するには、乳幼児期から自立するまでの切れ目ない家庭教育支援が重要であるが、現状ではまだ工夫の余地がある。

また、アンケート調査では、「親学習プログラム・思春期版家庭教育支援プログラム」に対する意見等を把握することができた。活用がある学校からの「具体的なアドバイスがある資料等の配付で参加者の満足度や意欲が高まるのではないか」、「特別支援学校の実態を把握している外部人材がいたら情報提供してほしい」といった回答や、活用がない学校からの「プログラムについて理解不足だった」、「本校の実態に合わせて活用したい」、「短時間で実施できるプログラムを知りたい」、「子育てを終えた方の体験談やアドバイスなどあれば保護者は関心を示すかもしれない」といった回答は、新たなプログラム展開案の作成に向けてのヒントにつながった。

本調査研究を進めるにあたり、家庭教育について長年研究を重ねてこられている牧野先生や、ファシリテーターとしての活動経験が豊富な伊吹氏、生井氏、生涯学習課や教育事務所において家庭教育を担当している職員に研究協力員を委嘱した。研究協力委員を構成員とする研究会議においては、県立学校対象のアンケート調査結果等を基に意見交換をしながら、時間配分やグループ分けの仕方、言葉の掛け方、準備する資料の内容など細部にも気を配り、PTA総会や学年保護者会で実施できるプログラムと、講話と組み合わせてできるプログラムの展開案を作成することができた。

研究協力校について、年度途中で依頼することになり実施したのは2校となったが、実施校ではいずれもよい成果を得た。栃木工業高等学校の実践では、活動が進むにつれて参加者の雰囲気や和やかになったことや、自分の子どもが書いてくれた名札シールを嬉しそうに見つめている姿がとても印象的だった。30分という短時間プログラムではあったが、参加者の満足度が高く、ねらいに沿った気付きや学びを得られたとするアンケートの結果から、プログラムが短時間になったとしても、保護者同士が話し合いを通して、悩みを共有したり、意見を交換したりして、子育てについて考える機会の提供につながった。

栃木特別支援学校の実践では、親学習プログラム指導者研修の修了者でもあり、自身が特別支援学校の保護者でもあったという方がファシリテーターを務めた。25分というかなりの短時間プログラムのため、話す時間の確保と安心して話せる雰囲気づくりに気を配って準備等を進めていた。ファシリテーターとしてベテランであり、実際にプログラムを展開する際には、時間配分を熟慮した進行表や仕掛けのある資料を用意するなどして臨んでいたことにより、保護者同士がとても安心した気持ちで意見交換をしたり、満足した表情で帰ったりする姿を見ることができた。こういった参加者の様子や実施後のアンケート結果から、講話内容を振り返るといってプログラムであっても、参加者の満足度が上がり、話の内容をより理解して気付きや学びを得られる機会の提供につながった。

研究協力校での実践を通して、PTA総会や学年保護者会で実施できるプログラムと、講話と組み合わ

せてできるプログラムの展開案は、保護者の満足が得られ、ねらいに沿った効果も十分見込めるものとして、広く紹介することができる手応えをつかめた。そして、この実践したプログラムなどについてまとめた資料があれば、活用がない学校から出されていた「行事に新たに組み入れる時間的、人的余裕がない」、「短時間プログラムがあるなら知りたい」に十分対応でき、「親学習プログラム・思春期版家庭教育支援プログラム」の活用促進にもつながると思われる。

そこで、調査研究の成果として、学校で保護者を対象にした学びの機会を企画する方向けにリーフレットを作成することとした。「親学習プログラム・思春期版家庭教育支援プログラム」を紹介するとともに、活用を促進することをねらいとして、調査研究の取組から得られた成果や、実践事例などをまとめた。

「親学習プログラム」を知らない人が目にして理解できることや、実施したいと思ったらすぐ依頼できることなどを考慮して構成や内容を工夫した。また、リーフレットに「親学習プログラム」を継続実施している学校の情報を入れることで、継続可能な要因などを紹介することとした。